

# 外国人観光客2000万人目標

## 2020年まで 国交省 東アジア中心に誘致

国土交通省は日本を訪れる外国人観光客数を二〇二〇年をメドに二千万人に増やす目標を打ち出す。一千万人を目指す現在の目標達成が現実になったを受け、十月に設置する観光庁を中心に官民一体の誘致運動を展開する。国際親善の推進、地域活性化などの効果を期待する。

外国人観光客は〇七年で八百三十五万人。海外に行く日本人数(千七百二十九万人)には及ばないが、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を始めた〇三年から六割増えた。このペースが続けば一〇年までに一千万人の目標を前倒して達成する見通しだ。

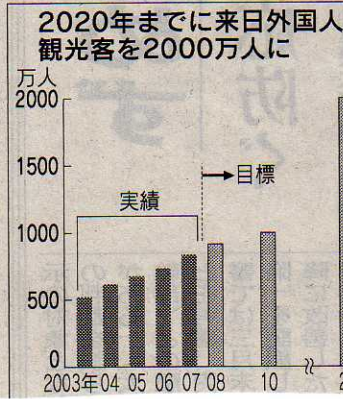
東アジア地域で海外旅行を楽しむ消費者が増えたことが背景にある。〇七年までの三年間で外国人観光客は約二百二十万人増えたが、このうち八割が中国、韓国、台湾、香港からの旅行者だ。

アからの観光客には「雪見物」や温泉巡りを楽しむにしている人も多い」といい、国交省などは地方活性化の好機になるとみている。

国交省によると、〇四年の外国人観光客受け入れ数はフランスが約七千五百万人で一位。中国、イタリアなどが続く。年間二千万人の新目標は九、十位のドイツ、オーストリア並み。国交省は「外国人観光客数を経済力に見合った水準に近づきたい」としている。

誘致の具体策は秋にもまとめる。①観光関連窓口を観光庁に一本化し外国政府の担当部局と連携

②訪日ビザの発給要件を緩和③国際会議の日本開催を増やす—などの案が浮上している。観光地の魅力を高める取り組みも支援する。今国会で成立した「歴史まちづくり法」では歴史的な建造物の補修などをする自治体を国が助成する。



中国などの経済成長で

との試算もある。「アジ